



魔都篇

帝都物語 2

荒俣宏

KADOKAWA NOVELS

東京グランギニョール
(ガラチア) 5月公演

破壊せよ帝都を!! — 大東亜の栄華をうたう
東京を舞台に霊術家たちの死闘が展開され
話題騒然のシリーズ、待望の第2弾!!



ガドカワ パルズ

昭和六十年四月二十五日初版発行
昭和六十二年十一月二十五日五版発行

著者 荒俣宏 あらまたひろし

発行者 角川春樹

ていとうものがたり
帝都物語 2 魔都篇 マビロンへん

印刷所 暁印刷株式会社

製本所 株式会社鈴木製本所

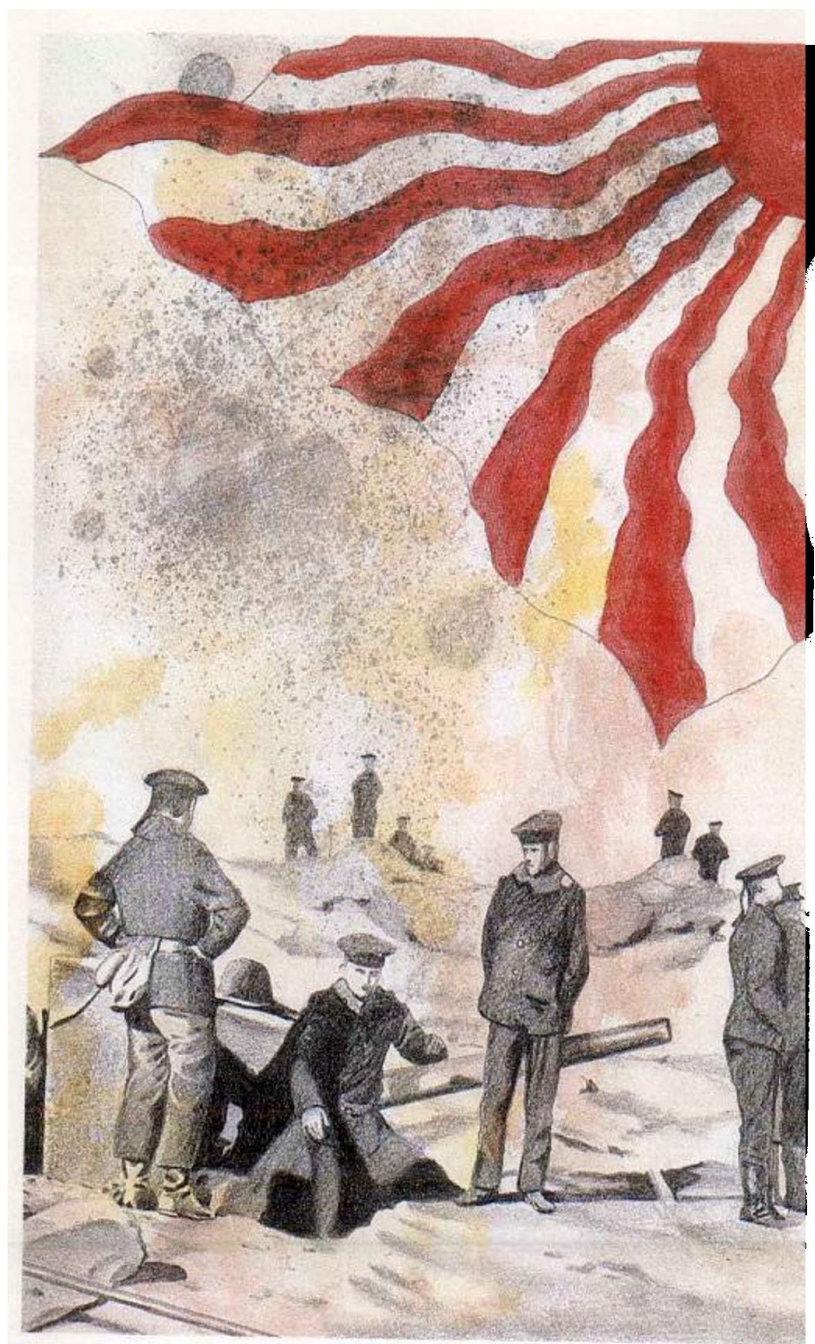
装丁者 岡村元夫

発行所 株式会社角川書店

東京都千代田区富士見三二三 振替東京三一五三〇八
〒〇三 電話 営業〇三三八八五三 編集〇三三八八五二

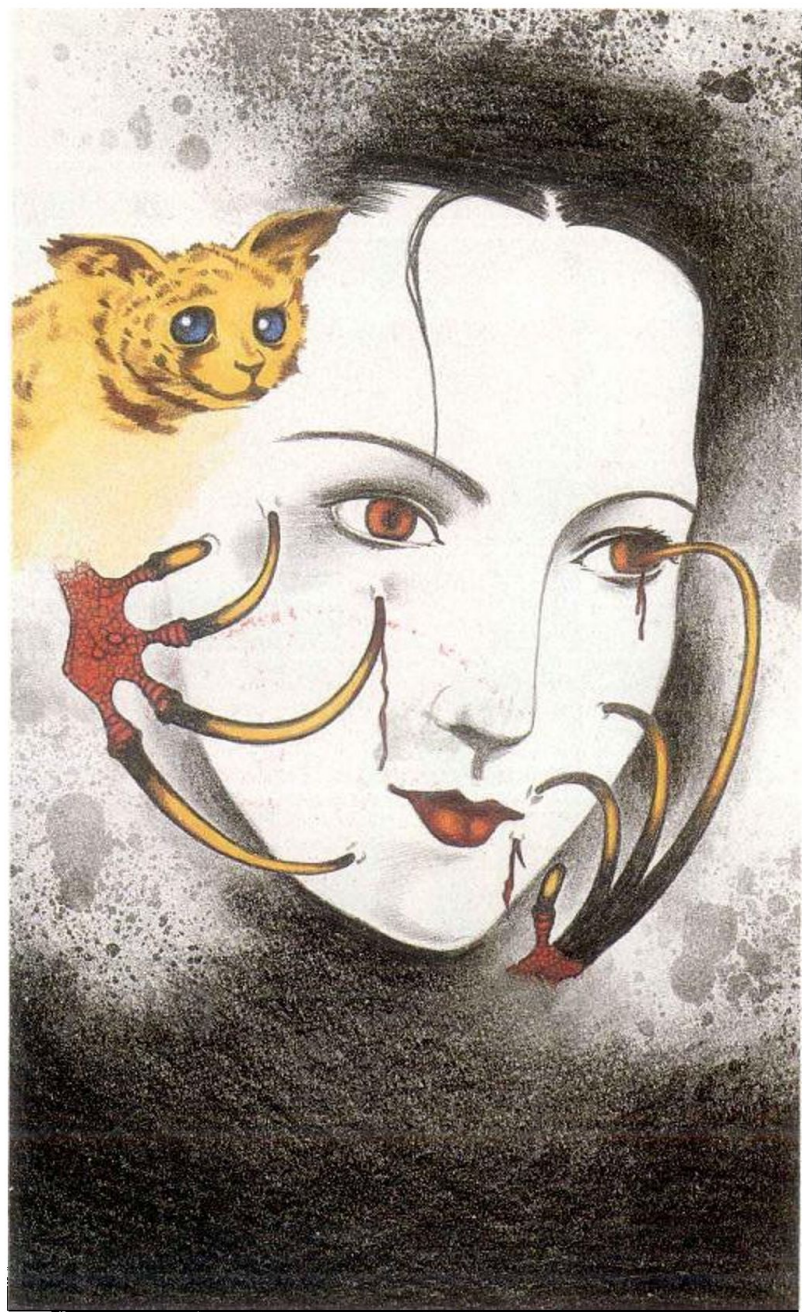
Printed in Japan 落丁・乱丁本はお取替えいたします

ISBN4-04-777802-8 C0293









KADOKAWA NOVELS

京都篇
帝都物語 2

荒俣 宏

ハー・絵・口絵・本文イラスト／丸尾末広

目次

卷一 あり得べからざる死闘

13

卷二 魔の由来

75

卷三 謎に迫る人々

119

卷四 由佳理の奪回

145

卷五 亥の年の破壊

173

前巻のあらすじ

明治四十年、日露戦争にわきかえる巷をよそに、内務省と大蔵省が中心となって奇妙な計画が秘密裏のうちにすすめられていた。プロジェクトはいよいよ仕上げの段階をむかえていた。それは戦勝を機に東京を日本最強の、いや大東亜最強の帝都に改造せんとするプロジェクトだったのである。軍事のみならず「霊的」にも最も祝福された都市をつくりあげる!! 帝都に新しい靈魂を封じこめ、奇門遁甲や占星によって霊的な都市相を調査する、プロジェクト最後の、そして最も重要な段階をむかえていたのである。

東京はたびかさなる火災によって江戸の面影をまず振り落とし、その後、渋沢栄一をはじめとする名だたる実務家によって改造がもくろまれていた。辰宮洋一郎は官吏としてこのプロジェクトに参加していた。ある日、辰宮は妹の由佳里と、友人で東京帝大理学部に着をおく鳴滝純一と大蔵省の中庭で談笑していた。ところが突然由佳里が失神。その時彼女が見たものは、崩壊の中で燃え上がる東洋のバビロン、帝都東京の最後の姿だった。帝都は崩壊の予感の中で不気味な渦をつくりはじめたの

だ。政府の要請のもとにプロジェクトを進める渋沢栄一男爵のもとにさまざまな男たちが参集しはじめる。歴代天皇のブレーンとして歴史を支配してきた土御門家、平将門の復讐にもえる男、織田完之。実験物理の精鋭、寺田寅彦。そして、謎の五芒星のハンカチを持ち東洋のト占をあやつる超人的な軍人、加藤保憲。加藤は大蔵省内でたて続けに起こる平将門怨霊事件を片づけなければ帝都改造はおぼつかないと、塚にとりつく霊をよびさまそうとしていた。由佳里のシャーマンのな才能に目をつけた加藤は由佳里を言葉たくみに誘い出し、彼女に腹中虫と呼ぶ人間をコントロールする虫をのませる。破壊か? 改造か? 加藤は一体何を企てているのか。加藤の陰謀に対するは当代きつてのマジシャン、幸田露伴。露伴は土御門家の平井保昌と加藤の動きを封じんと式神をうつ。ドイツナチス、ハウスホーファーとも手を組む加藤に突然、式神たちが襲いかかる。いよいよ帝都を舞台にサイキック・ウォーズの火ぶたが切っておとされた!!

〈登場人物〉

平将門たいらのまさかど

平安期関東最大の英雄。中央政權に刃向かい、関東を独立国化したため討伐されたが、その一生は関東ユートピア設立のためにささげられた。現在もなお大手町のビルの一角に残る将門首塚は、すでに千年間、東京の中心を鎮護しつづけている。

佐藤信淵さとうのぶひろ

江戸末期の經世家、鉾山技術家、兵法家。ユートピアをめざし、将門ゆかりの印旛沼をはじめ内洋すべてを干拓し生産性の向上をもとめた人物。彼の『字内混同秘策』は神道家平田篤胤等の奇怪な日本中心主義を借りて、全世界を征服するための青写真を描いた一大奇書であり、この中に「東京」という名称が初めて用いられたとされる。

寺田寅彦てらだ とらひこ

日本を代表する超博物学者、夏目漱石の一番弟子。江戸末期にふとした事件から実弟を手

にかけて死なせた父のやるせない思いを無意識に受けつぐ一方、物理学者でありながら超自然や怪異への限らない興味をいだきつづけた。迫りくる東京滅亡を必死で喰いとめようとする少壮の学士。

渋沢栄一しぶさわ えいち

明治期東京を代表する実業家で、自由競争経済建設の指導者。パリ万博にもむいた幕府使節団の一人で、第一国立銀行の頭取をつとめるなど金融体制の設立にも力があつた。儒教倫理の持ち主らしく、怪異・神秘に対しては「怪力乱神を語らず」の姿勢を通した。

織田完之おだ かんし

三河国の豪農の家に生まれ勤王派に加わり、桂小五郎や高杉晋作らと交友したが、維新後は明治政府の農業・干拓事業を担当、とりわけ印旛沼の治水事業には力を入れた。二十五年に引退し碑文協会を設立、以来、二宮尊徳・佐藤信淵の思想の体系的紹介に尽力した。

幸田露伴こうだ ろはん

本名は幸田成行。明治期最大の東洋神秘学研究者の一人。その著『魔法修行者』『頭脳論』

などの奇作と並び、因縁めいた評伝『平将門』などは、『帝都物語』の読者には必携必読であろう。『八大伝』の熱烈な支持者でもあった。また彼には『一国の首都』と題した長大な東京改造論があり、後年には寺田寅彦と親交を結び、渋沢栄一の伝記をも著している。

カール・ハウスホーファー・ミュンヘンに生まれ、一八八七年陸軍の将官として印度、東アジア、シベリアを旅行し、一九〇九年から約二年日本にも滞在した。日本においては「緑竜」なる結社に入会したとされる。地政学（ゲオポリティクス）を戦争の科学に高め、初期ナチズムの神秘的な教養を形成する影の参謀となった。また後年ミュンヘン大学の教授・学長を歴任、敗戦ののち割腹自殺を遂げた。

森田正馬 日本近代の精神医学者、治療家。寺田寅彦が幼少期を過した高知に生まれ、犬神憑きなどの霊現象を研究した。のち、「森田療法」として知られる独創的な精神病治療法を確立した。

森林太郎 筆名は鷗外。明治期最大の文学者の一人で、軍医としても多くの業績を残した。高級官吏と文学者の二道をとともに追究し、そして傷ついた。幸田露伴とは親友のあいだがらで、斎藤緑雨を加えて『三人冗語』の名による洒落た文芸時評を合作した。

大河内正敏 江戸期以来の名門大河内家の英才。東京帝国大学では寺田寅彦以上の天才とうたわれ、共同で物理学の実験も手がけた。大正六年に設立された応用科学研究の総本山「理科学研究所」（略称は「理研」）の総裁となる。美丈夫のほまれ高く、人柄も名家の出にふさわしく寛大だった。

安倍晴明 平安期の大陰陽師、天文博士。当時の霊的コンサルタントとして皇族や貴族・民衆のあいだに絶大な信望を集めた。一説に、信太の狐の子といわれ、官制魔道の宗家「土御門」の開祖となった。日本最大の白魔術師。

辰宮洋一郎 大蔵省の若き官吏。帝都改造計画に

加わり、明治末期から大正にかけての歴史の奔流を
目撃する。

辰宮由佳里 洋一郎の妹。強度のヒステリー症状
ないしは一種の靈能を有し、そのために奇怪な事件
に巻き込まれる。精神を病んで森田正馬医師の治療
をうけるが、帝都に撒かれた怨念と復讐の種子は、
彼女を通じて不気味に開花する。

鳴滝純一 理学士。辰宮洋一郎の旧友で、東京帝
国大学理科大学に籍を置く。怪事に巻き込まれた辰
宮由佳理を必死に救出するが、凶刃に倒れる。

平井保昌 土御門家の老陰陽師。秘術を尽くして
宿敵とわたりあうが、明治天皇崩御に接し自刃。鬼
殺しの英雄 源頼光に協力した武者に同名の人物が
おり、奇しくも明治版「羅生門の鬼」事件に遭遇す
る。

洪鳳 朝鮮の秘密結社「天道教」に所属する女。

林覚 支那の秘密結社「三合会」に所属する青年。
加藤保憲 陸軍少尉、のち中尉。帝都に怨霊を喚

び、古来最も恐れられた呪殺の秘法「蠱術」を使う。
陰陽道、奇門遁甲に通じ、目に見えぬ鬼神「式神」
をあやつる。辰宮由佳理を誘拐した真の目的は何か。
帝都の命運はこの怪人物の掌中に握られている。

卷一　あり得べからざる死闘

1　寺田寅彦からの手紙

拝啓

当地伯林ベルリンはもはや真夏です。弥生二十五日に東京を引き払う際にはお世話に相成り有難う。五月六日に無事欧州上陸を果たし伯林帝国大学に入学。僕の下宿先の娘さんはすこぶるチャアミングだ。

先日はティーアガルテンを見物しに行つた。孔雀も鷺鳥も池の周辺に放し飼いになっており、アルパカと称する南米産の駱駝が暢気に立っているのが面白かつた。独逸随一の動物園だが、僕には珍獣や珍鳥よりも動物舎の建て方が大いに興味深かつた。象のいる建物インドは印度の大寺院風、虎は支那の塔、鷺鳥が群れる池は日本庭園風と、僕のような東洋人にさえ見慣れぬ奇怪な東洋式建物に装つてある。留学の途中、僕は印度を回つて来たのだが、蒸気船プリンツ・ルドギッヒ号から眺めた

限りでは、ここの象舎に似た寺院なぞ見当たらなかったね。

聞けば、ティーアガルトンの意匠設計を手がけた代表格はエンデ・ウント・ベックマン事務所という設計屋らしい。驚いたことに、このエンデとベックマンは今から二十年ほど以前、わが日本政府の依頼を受けて東京改造計画の立案に尽力した人々だった。奇縁というべきだね、鳴滝君。彼等のご苦労にも遠路はるばる、測量と現地視察のために日本へ渡ったそう。日本からは妻木頼黄という建築設計家が出て来て、彼等の教えを受けたという。たしか、目下建設中の新日本橋の意匠を任された人だと記憶する。

鳴滝君、どうやら僕は上機嫌にまかせて饒舌になりすぎているようだ。どうか、伯林での毎日の驚きと興奮とを察してくれたまえ。君もいずれは物理学で身を立てるつもりだろうから、最初に言うておくが、是非とも独逸に留学したまえ。金がなければ、出世払いで知人達から強引に調達すればよい。そのときには、不肖この寺田寅彦もひと膚脱ぐこととしよう。

僕は大学で、地球物理学を学ぶかたわら、地震や天災や火災についての最新知識を漁るつもりだ。相変わらずの物好きめ、と苦笑する君の顔が手に取るように判るよ。しかし僕はこれを一生の課題としていく覚悟だから、いくら笑われても気になぞせぬ。実は、この手紙を君に宛てて書いているのも、数日前に一寸した発見をしたからなのだ。どうか、以下にしたためる話を大蔵省の辰宮洋一郎君に伝えてほしい。無論のことだが、彼の妹君への見舞いの辞も添えてくれたまえ。

まだ内密の話なのだが、僕は過日、第五回目の休日を利用し、先輩を無理矢理口説いて倫敦へ連

れていってもらった。理由は、有名な倫敦大火災の資料を集めることと、わが日本の地震学の基礎を築かれた恩師ジョン・ミルン先生に目もじする光榮に浴せぬかという虫のよい希望からだった。

しかし、現地に着いてワイト島のミルン邸に伺ったところ、気品ある日本の婦人と対面して泡を食った。その日本婦人は名をトネさんといってね、なんとミルン先生の奥方だったのだ。華奢な方だが、黒いヨーロッパ風の服がとてもお似合いだった。先生は日本を去るにあたり、日本人の奥方と日本人の地震観測技師スノーイー・ヒロタと共に英国へ連れて来ておられたのだ。そういうわけで僕は希望が叶い、片言の日本語でヒューマアさえ臨機応変に差しはさまれるミルン先生と会見する機会に恵まれた。だが、こういうたぐいの接触は、僕としても正式の裁可を得たものではないから目下のところは内密にしておきたい。

ミルン先生の邸宅で思いがけぬ歓待を受けたことは、君に話してもしかたないことだ。しかし、真冬にシベリアを櫓で横断して日本へ赴任してこられたというミルン先生の数十年前の豪傑談は、今の学生にさえ轟いていることだろう。親しく対面する機会を得て、僕は改めてミルン先生の大きさを感じたよ。冗談のお好きな、楽しい先生だった。

ところで鳴滝君、ここからが本題なのだが、僕はミルン先生から、東京のとある地区で体験した奇妙な事件の話をうかがうことができた。それを今、掻いつまんで書いておこう。

ミルン先生が世界に先がけて、巨大地震を正確に記録し得る新型地震計を開発され、東京の各地で震動記録の実験を行なわれたときのことだ。丸の内の大蔵省構内にある裏庭に穴を掘り、仮の実